

2021年3月 (No.381)

主な内容とページ

世界半導体貿易、中国への集中と管理貿易の進展	1
中国の半導体貿易収支、史上二番目の赤字	2
台湾は輸出では実質世界トップ	5
激化する米中摩擦と半導体市場への衝撃	6
半導体は自由貿易から管理貿易へ	7
東日本大震災と半導体、この 10 年	7
独立色強まり、残すはしぶとい経営	9
1+1 が 2 にならない(SRL だより)	11

世界半導体貿易、中国への集中と管理貿易の進展

半導体の世界貿易は増大、中国のシェアは高まり、米中間の摩擦から管理貿易の様相を強めている。

1. 中国の半導体輸入は昨年、高い伸びを実現、半導体の貿易収支赤字は過去二番目の規模を記録した。
2. 半導体の輸出では台湾がトップの座を固めた。しかし、同国の半導体輸出全体に占める中国向けは3割超、香港向けも加えれば6割超と増大、伸びの一方、米中摩擦下で難しいかじ取りを迫られている。
3. 半導体は米中間の紛争激化から管理貿易の度合いを強め、通関業務の増大による納期ずれ、市場での品不足、値上げの一方で過剰在庫など、多分野に影響が拡大している。

1+1 が 2 にならない

ある商社の社長が「1+1 が 2 にはならない」と語っていたのが印象に残っている。もう 20 年以上も前のことだが、従って同社は中国には進出しない。その理由が、冒頭の言で、現地には、現地のやり方があり、日本の常識では、通用しないことも多々。今は中国と縁のない日本企業はほとんどないと思うが、答えはどうだろうか。

国が変わればやり方も異なるのは当然かもしれないが、貿易等で時間とともに共通のルールが使われるようになる。しかし、そこにたどりつくまでは多くの時間と根気が不可欠。頼りになるのは、出し手と受け手が存在し、この両者間それぞれ確認することが出来る。この場合は 1+1 は 2 になると思う。

しかし、今回の半導体貿易の解説で指摘しているように現実には、数字が合わないことが多々。「白を黒という」ことわざではないが、この分野は白、黒、灰色すべてあり。しかし、これが世の中の現実。有事の際には、混乱をより増大させる。これは半導体だけの話ではなく、よくある例だと思う。

(大竹 修)

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2021 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2021 年 3 月 (毎月 1 回発行) 第 32 巻 3 号 (通巻 381 号)

発行元: 株式会社 SRL
〒188-0014 東京都 西東京市 芝久保町 3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

March 2021, No.381

Semicon Research Ltd.
3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014
Japan Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor Osamu Ohtake